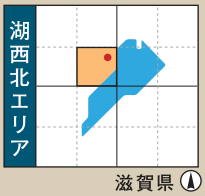
名勝
県指定

# 極楽寺庭園（ごくらくじていえん）

今津町福岡　昭和62年3月30日指定




極楽寺は、「山崎堂」とも称され、石田川左岸の小丘上にあります。庭園は本堂の南に面した枯山水で、江戸時代末期の作庭です。庭園の多くが、作者や作庭の時期が明確でない中にあって、この庭園は作者、時期、経緯とも明らかで、庭園の研究上貴重な事例となっています。

| 当時のできごと | |
|---|---|
| 1805年 | ロシア船来航 |
| 1811年 | ロシア艦長<br>ゴローニン逮捕 |
| 1823年 | シーボルト着任 |

## 庭の構造

この庭は、自然の傾斜を利用した枯山水で、頂上に一風変わった配置の三尊石を配し、その下部には見応えのある枯滝を組みます。枯滝の正面には平らな岩を埋め込み「水分石（みくまりいし）」とします。庭の前面は広くスギゴケに覆われ、滝からの水をたたえた池の風情を表しています。

この庭は、江戸時代末期の庭ですが、所々に古い様式を見ることができ、形式化しつつある配石ではあるものの、よくまとまった構成の庭となっています。



極楽寺参道



極楽寺庭園全景

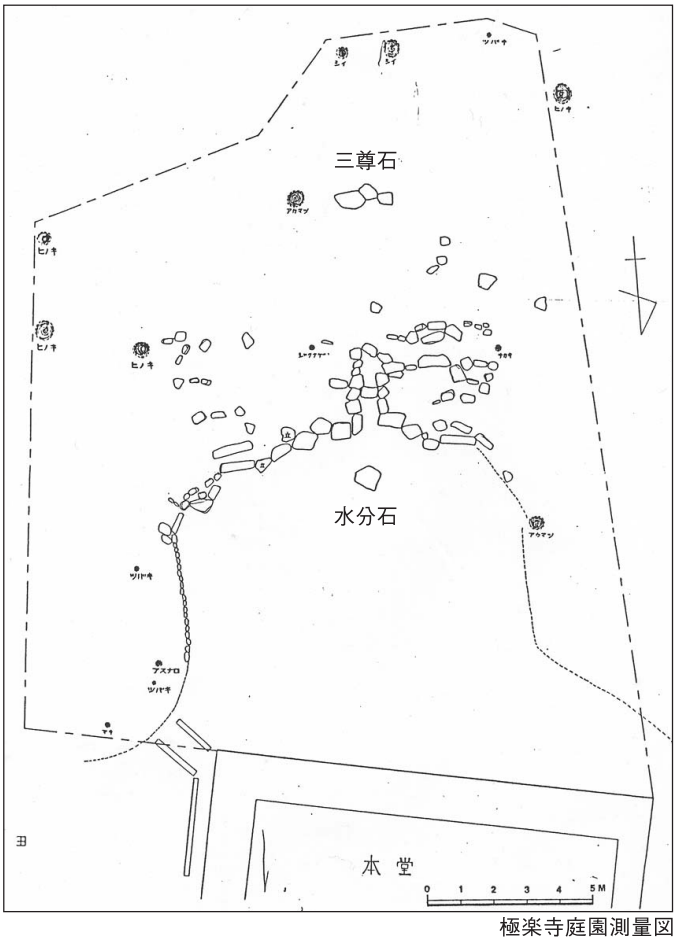
# 作庭の経緯

この庭を造らせたのは、説誉上人歓寿和尚で、火災で焼失した本堂を文化2年（1805）から5年をかけ再建した当寺中興の功労者です。本堂の再建と平行して作庭も計画され、上人と同郷（伊香郡西浅井村字大浦）の庭師岩崎清光に依頼しますが、この時、清光は江戸で活躍中であり、ようやく近江に戻り作庭に着手したのは、文政6年（1823）6月16日のことでした。以来15日間、人夫延べ45人に寺の関係者が手伝い、30日に完成しました。経費は、清光へのお礼が金子1両、ほかに石代、酒飯雑用に2両を使いました。これらの事情は、寺の過去帳に詳細に記されています。

この庭は、作庭の経緯が詳細にわかる希有な事例として貴重です。



枯滝石組




極楽寺庭園測量図



歓寿和尚の名を刻した石碑

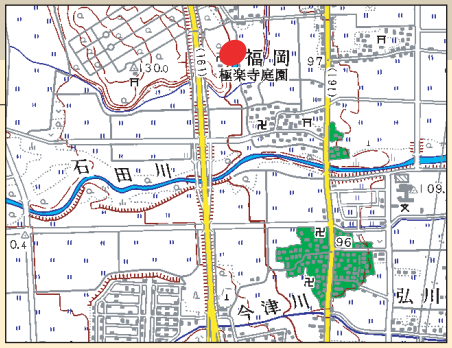
## 関連する文化財

| | |
|---|---|
| **妙見山古墳群**（今津町） | 日置前遺跡の東丘陵上に造られた後期古墳群。横穴式石室を持つものが多い |
| **日置前廃寺跡**（今津町） | 日置前遺跡に近接する古代寺院の遺跡。彩色壁画の断片が出土している |
| **名勝旧秀隣寺庭園**（朽木村） | 学習シートNo.090 |

## もっと深く知りたい


今津町教育委員会　☎0740-22-2551　今津町今津1966


**極楽寺庭園へのアクセス**　JR湖西線　近江今津駅下車





【参考文献】〔滋賀県の庭園1～3〕滋賀県教育委員会　〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔日本庭園史体系〕社会思想社



滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月